2024年度(令和6年度)学校評価自己評価表

東朋中学校区	校番 26	福山市立坪生小学校
最終更新日		2025年(令和7年)2月17日

I 福山市

ミッション ビジョン	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
---------------	---

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ○不登校生徒への丁寧な支援を引き続き継続してもらいたい。 ○地域の多様な人材を職業学習などの機会を活用してほしい。 ○交通安全や地域のボランティア活動など地域との連携を引き続き強化してほしい。	児童生徒の現状 ○「学校に行くのが楽しい」「安心して通っている」と感じている児童生徒の割合は91.5%(校区平均)であり、安心・安全で学校に楽しみを感じながら登校している。 ○「目標や方法を選びながら学んでいる」や「考えること、学びが面白い」と感じている児童生徒の割合は87.1%(校区平均)であり、選択・決定したり、対話をしたりしながら自ら学びを進めている。 ○「自分の考えがうまく伝わるように、資料や文章、話の組立てなどを工夫していましたか」と感じている児童生徒の割合は63.2%(校区平均)と課題がある。
---	--

育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	○課題発見解決能力 ○チャレンジ精神	○コミュニケーション能力(自己効力感) ○思いやりと感謝の心(地域貢献)
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	○よりよく課題を解決し、自分の生き方に生かす ○互いを認め、よりよい人間関係を形成する ○自分に必要な挑戦を選択してやってみる ○人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じる	
中学校区として統一した取組等	○子ども主体の学びづくり(授業, 児童生徒会活動, ボランティア活動など) ○体力や健康についての自己課題の解決 ○SDGs「住み続けられるまちづくりを」につながる生活科・総合的な学習の時間等の充実	

III 自校

ミッション
児童と授業・行事を作り上げるとともに、確かな学力を身に付けるようにする。

学校教育目標
学び合い 学び続ける

現状
<p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「自分で目標や方法を選びながら学んでいる」肯定的回答⇒83% ○「学校が楽しい」肯定的回答⇒86% ○「体を動かすことが楽しい」肯定的回答⇒90% ・おおむね目標を達成しているが、各種調査の結果から、思考力、判断力、表現力等に課題が見られる。また、否定的な回答をした児童も一定数いるという現状を受け止め、引き続き児童一人一人に寄り添って指導を行っていく。 <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校に対する安心感 肯定的回答⇒92% ・多様な価値観の中、学校が進める教育を丁寧に説明したり、保護者の意見をもとに修正したりする。 <p><職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「仕事にやりがいを感じている」⇒93% ・組織体制の見直しや、職員同士の対話を通して、全職員で共通理解を高めていく。

育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	課題発見解決能力	コミュニケーション能力	チャレンジ精神 (自己効力感)	思いやりと感謝の心 (地域貢献)	
めざす子ども像	5・6年	解決に向けて、主体的に選択・判断する	人の考えや気持ちを受け入れ、自分の意見や気持ちを表現する	結果の理由を次に生かしてやってみる	人や地域のためになることを考え、行動する
	3・4年	解決への方法を考え、見通しを立てる	人の気持ちを考え、自分の意見を理由をつけて伝える	得意なこと苦手なことやってみる	人や地域のためになることを考える
	1・2年	もんだいにきづき、かだいをたてる	じぶんのかんがえやきもちをいう	もくひょうをもつてやってみる	ひとやちいきにかんしゃのきもちをもつ

研究	テーマ	教科の見方・考え方を働かせる学び合い ～子どもの『何で?』『わかった!』『やってみたい!』が生まれる授業をめざして～
	主題・内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・つぶやきや疑問から探究が始まる働きかけ ・概念を広く学ぶ機会の創出 ・知識を使う場の意図的な設定
めざす授業の姿	児童一人一人が教科の見方・考え方を働かせながら学びに向かう授業	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立坪生小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	70 以上 達成 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状 況	70 以上 達成 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	主体的な学 びの創造	★	見 直 し	教科の見方・ 考え方を働か せる学び合い を創造する。	①教科の目標や児童の学 びの姿について交流す る時間を設定し、教科 の見方・考え方への理 解を深める。 ②教材研究や児童の実態 をもとに、児童とともに 授業づくりを行う。	①教材研究や授業実践 を学期に2回以上交 流する。 ②教科の見方・考え方 を働かせ主体的に学 びに向かう児童が増 えている。 児童アンケート 「授業で『わかった！ 』『やってみたい！ 』と感じたり、『ど うしてかな？』と考 えたりしている。」 (4段階)肯定的評価 85%以上	①校内研究授業を4回、それ に向けた事前の研修を3回 行い、教科の見方・考え方 や系統性について交流し た。また、校内研修後には 研究たよりを発行すること で、共通認識を図り、教材 研究や授業づくりの見通し をもつことができるよう になった。 ②教材研究や研修で話し合っ たことをもとに、教科の見 方・考え方を働かせること を意識した授業づくりを行 ったことで、主体的に学 びに向かう児童が増えた。 ⇒児童アンケート 「授業の中で『どうしてか な？』と考えることが楽し い。」 肯定的評価児童 84% 「授業の中で『わかった！』 と感じることができてい る。」 肯定的評価児童 89% 「授業の中で『やってみ たい！』と思ったことに挑戦 できている。」 肯定的評価児童 80%	4	3	①個人の学びの変容や その要因に視点を定 めた授業後の交流を 行い、教科の見方・ 考え方について理解 を深める。 ②児童の実態をもと に、単元を通して身 に付けさせたい力は 何か、そのために単 元の中でどこに重点 を置くのかを明確に した教材研究を行 う。 ②授業の中で予想や自 分の考えを文章に表 したり、振り返りを 書いたりする。	①教科の見方・考え方を視点 に入れた授業研究及び授業 後の交流を4回、それに 向けた事前の研修を4回行 い、授業改善に生かすこと ができた。 ②各教科部会で、単元を通し て身に付けさせたい力は何 か、そのために単元の中 でどこに重点を置くのかに ついて、系統的に話をする 機会が増えた。また、部会 の内容を文章で教職員に示し ている。 ⇒児童アンケート 「授業の中で『どうしてか な？』と考えることが楽し い。」 肯定的評価児童 82% 「授業の中で『わかった！』 と感じることができてい る。」 肯定的評価児童 88% 「授業の中で『やってみ たい！』と思ったことに挑戦 できている。」 肯定的評価児童 84% ②家庭学習や授業の中で、 「書く」活動を意識的に取 り入れられるように学年で 話す機会を設定し、決めた ことを実行することができ た。 ⇒児童アンケート 「授業で自分の考えを書くこ とができる。」 肯定的評価児童 82%	4	3	3	①②引き続き教科の見方・考 え方を視点に入れた授業 研究及び授業後の交流を 行う。その際、「児童の つまずきはどこにあるの か」「つまずきをどのよ うに克服するのか」に着 目して、授業づくりを行 う。また、授業研究で得 られた学びを日々の授業 で活用し、その成果を交 流する機会を設ける。 ②今年度学年で行った「書 く」活動を次年度へと引 き継ぐことで、全教職員 での取組を意識し、書く 力の向上を目指す。

<p>4 自己肯定感・自己有用感の向上</p>	<p>見直し</p>	<p>互いを認め、相手を大切にできる児童を増やす。</p>	<p>①ことばを大切にすることを日常的に行う。 ②児童同士の相互評価の場を、柔軟に設定する。</p>	<p>①児童アンケート 「相手を大切にしたことば遣いをしている。」(4段階)肯定的評価70%以上 ②教師アンケート 「児童同士の相互評価の場を、意図的に設定している。」(4段階)肯定的評価90%以上</p>	<p>①全体指導、日常の中での個別指導を学校全体で継続して行うことができた。だが実際は、まだ言葉遣いに課題がある児童が多い。 ②たてわり掃除、児童会行事、異学年交流などを通して、互いに認め合う場を設定することができた。 ⇒児童アンケート 「相手を大切にした言葉遣いをしている。」肯定的評価児童93%目標をかなり上回った。 ⇒教師アンケート 「児童同士の相互評価の場を、意図的に設定している」肯定的評価教師90%</p>	<p>4 3 ①学校全体・各クラス・個人へのていねいな声かけを継続して行う。また児童が言葉を大切にできるよう、目が届きやすい場所に掲示を行う。 ⇒児童アンケート 「相手を大切にした言葉遣いをしている。」肯定的評価90%以上 ②日々の学習だけでなく、音楽発表会やその練習を通して、互い認め合う場を設定していく。</p>	<p>①全体指導、日常の中での個別指導を学校全体で継続して行った。まだ言葉遣いに課題がある児童が多いが、「つぼちゃん言葉」をクラスで決め、児童会を中心に掲示を行い、少しずつ前向きな言葉を使うよう意識している。 ②たてわり掃除、児童会行事、異学年交流などを通して、互いに認め合う場を設定することができた。掃除でMVPを決めるなど、良い行動を認め合うことの良さに気付けるようにした。 ⇒児童アンケート 「相手を大切にした言葉遣いをしている。」肯定的評価児童90%目標をかなり上回った。 ⇒教師アンケート 「児童同士の相互評価の場を、意図的に設定している」肯定的評価教師95.8%</p>	<p>4 3 3</p>	<p>①学校全体・各クラス・個人へのていねいな声かけを継続して行う。また児童が言葉を大切にしたり、行動をふり返ったりできるよう掲示を継続して行ったり、集会や放送で良さを伝えたりする。 ②学習だけでなく、掃除の工夫やメディアの時間を減らす取組など多くの場面で各クラス・学年・学校全体で認め合う場を設定する。</p>
<p>4 体力・健康に対する意識の向上</p>	<p>見直し</p>	<p>体力づくりを意識して、体を動かすことが楽しいと思える児童を増やす。</p>	<p>①体育的活動(行事)を通して、体を動かすことの楽しさを実感できるようにする。 ②委員会などと連携し、誰もが楽しみながら運動に触れる機会を設定し、その活動を保護者へも啓発していく。</p>	<p>①児童アンケート 「体を動かすことが楽しい」(4段階)肯定的評価90%以上 ②保護者アンケート 【学校での外遊びや習い事を含め、お子様は自ら体力づくりに取り組んでいる】肯定的評価85%以上</p>	<p>①リズム縄跳びに参加する児童が増加傾向にある。 ②休憩時間の体育館利用を促しているが、希望性のため利用率が低い。保護者に、新体カテストの結果や、家庭でできる運動の紹介をした。 ⇒児童アンケート 「体を動かすことが楽しい」肯定的評価90% ⇒保護者アンケート 「学校での外遊びや習い事を含め、お子様は自ら体力づくりに取り組んでいる」肯定的評価82%</p>	<p>3 3 ①高学年の参加率が低いため、参加しなくなる取組が必要。 例：ドッチボール大会 鬼ごっこ ②体育館利用の割り振りをしたり、イベントで利用したりして運動に触れる機会を増やせるように場の設定をする。また、それらの取組を保護者に啓発する。</p>	<p>①異学年同士の鬼ごっこ、なわとび大会を行った。目的や目標が明確な取組をした結果、全体的に練習段階から参加する児童が増えた。 ②体育館利用の割り振り、なわとび大会の練習での使用等によって休憩時間の体育館の利用率は上がった。また、取組の足跡を保護者に啓発した。 ⇒児童アンケート 「体を動かすことが楽しい」肯定的評価93% ⇒保護者アンケート 「学校での外遊びや習い事を含め、お子様は自ら体力づくりに取り組んでいる」肯定的評価83%</p>	<p>4 3 3</p>	<p>①1学期は運動会、2学期は球技大会と鬼ごっこ等の遊び、3学期はなわとび大会と、通年で体育的活動を設けて運動の楽しさを実感できるようにする。 ②体育館利用の割り振りを、通年で行う。通信等を活用して、保護者への啓発を継続して行う。</p>
<p>4 安全で安心できる学校の実現</p>	<p>★見直し</p>	<p>児童と保護者が安心・安全な学校生活を実感できるようにする。</p>	<p>①「何のためにしているのか」を意識した提案や取組を行う。 ②保護者や地域の多様なニーズを把握し、様々な方法でタイムリーに情報を発信する。</p>	<p>①教職員一人一人が学校の取組を自身の言葉で語れるようになる。 ②保護者アンケート 「学校に対する安心感」(4段階)肯定的評価93%以上</p>	<p>①教職員同士の対話を中心とした研修を設定したことで、一人一人が取組を語れるようになった。 ②月に1回以上の学校だよりや学年通信、学級通信を発行することによって、児童の様子を保護者に伝えることができた。 ⇒保護者アンケート 「学校に対する安心感」肯定的評価95%</p>	<p>4 3 ①学校の取組を「取り組んでいる理由」を明確に児童や保護者に伝えていく。 ②通信で予定のお知らせだけでなく、実施した内容など子どもたちのがんばりを伝える。</p>	<p>①学びの評価や保護者との共有の仕方について、教職員同士の対話を中心とした研修を設定し、日々の授業や三者懇談に生かした。 ②日々の授業に加え、行事なども便りやクラスルームで配信した。 ⇒保護者アンケート 「学校に対する安心感」肯定的評価95.5%</p>	<p>4 3 3</p>	<p>①教職員一人一人の多様なアイデアを出し合う場を確保し、学校運営の参画意識をさらに高める。 ②学びの様子に加え、研修や各部の取組等についても情報発信を行う。</p>

		<p>教職員同士が意見交流をもち、児童が確かな学力を身に付けることができるようにする。</p>	<p>①帯タイムを設定し、学習する習慣を確保する。帯タイムの時間に行った問題を検定シートにも取り入れる。</p> <p>②検定シートに取り組む。また、問題作りの交流をする時間を設定する。</p>	<p>①検定シートの合格率(国・算)各クラス75%以上</p> <p>②児童が確かな学力を身に付けているか取組をもとに対話を重ね、交流する場を設定する。</p>	<p>①合格者にはシールやスタンプを授与することで、意欲付けにつながっている。</p> <p>学力に課題のある児童への手立てを考える必要がある。</p> <p>②取組を学年ごとに決めることができた。学年ごとには交流したが、異学年では交流できなかった。</p>	<p>4 3</p>	<p>①検定シート実施前に、過去の問題や苦手な問題に取り組んでみる。</p> <p>振り返りだけではなく、目標や計画なども児童自身が考えられるようにする。</p> <p>②学年主任会で他学年の取組を交流できる場を設定する。</p>	<p>①1回ごとに直しや解説を行い、2回目以降の類似問題を解くことができるような手立てを行った。</p> <p>2学期合格率 国語：69% 算数：79.9%</p> <p>②研究部と協働して、「書くこと」の取組を意識した授業づくりや、問題作りを行った。検定シートの「書く」問題については、正答率が上がらなかった。</p>	<p>4 3 3</p>	<p>①該当学年で身に付けたい力を全学年で意識しながら授業づくりを行っていく。来年度は児童自身が目標や計画を立てられるようなワークシートを作成する。</p> <p>②「書くこと」については引き続き重点課題として、授業づくりの中に位置づけていく。</p>
--	--	---	---	--	---	------------	---	--	--------------	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。